

北海道医療センターには28の診療科があります。その中で活躍する様々な診療科の先生に
 フィーチャーし、今取り組んでいる課題や最新の医療知識などをご紹介します。

【脳神経外科】

急性期脳卒中治療にむけた脳神経外科の総合的医療体制をさらに強化 脳梗塞に対する次世代型血栓除去デバイスの導入を決定、7月運用開始予定

北海道医療センター脳神経外科では、急性期脳卒中の治療に力を入れた診療をおこなっています。
 三次救急医療機関の役割を担う当センターでは、救急隊、さらには医療機関の皆様との連携強化を図り、発症
 後の速やかな対応をもって脳梗塞の患者様を救命、後遺症を軽くして家庭・社会復帰いただけるよう、最新の
 医療技術と機器による総合的医療サポート体制を敷いています。

急性期脳卒中患者様の良好な機能予後獲得にむけた3つの取り組み

①365日24時間体制で救急患者様の受入れ対応が可能

第三次救命救急医療機関として、脳神経外科医が常時ホットライン(070-6956-8428)を携帯。救急隊や
 医療機関の皆様と連携をとって患者様の速やかな受入れをおこないます。

②迅速な病態把握

受入れ後はCTやMRI、血管撮影装置などを使用した画像診断を早急に実施します。

③バランスの取れた適切な治療

脳卒中の治療には内科的治療、カテーテルを用いた脳血管内治療、外科的治療があります。当科では脳
 神経外科医3名、脳卒中内科医1名、計4名のプロフェッショナルチームです。患者様にもっとも適した治療を
 選択し、病態によって他診療科と連携した治療が可能なのも当センターの強みの一つです。

脳梗塞に対する最新の血栓除去デバイスを導入

そして当科では、血栓溶解剤(t-PA)適応外の患者様にむけた治療選択肢として、物理的に血栓を除去する血
 管内治療(機械的血栓回収療法)である**次世代型血栓除去デバイスの導入を決定**、7月頃より運用を開始する
 予定です。この血栓除去デバイスは血行再建と血栓回収機能が一体化したスリットの入った自己拡張型の筒状
 の形状で、血栓に直接アクセスするため、迅速な血管の再開通が期待できます。

総合的医療体制で劇的な回復を遂げたAさんの場合 (症例ご紹介)

札幌市在住Aさん(男性76歳)は自宅でめまい、嘔吐、ろれつが回らない症状が出現したことに奥様が気づき救急
 要請、発症から90分で当院に搬送されました。

搬入時には昏睡状態、四肢麻痺の重篤な状態でしたが、脳神経外科医を中心とした救急チームにより迅速に病態
 を把握、両側の椎骨動脈閉塞と判明し、「tPA静注療法」を開始しましたが改善が得られず、直ちに脳血管内治療
 による「機械的血栓除去術」を実施、再開通が得られ症状は劇的に回復しました。

その後、2週間で自宅退院となり、現在は入院前と変わらない生活を送られています。ご家族が比較的速やかに救
 急要請されたことと、必要な治療を即座に行える人員、機材が揃っていたことが良い結果につながったものと考えら
 れます。

【脳神経外科】

*写真上段左より

医長・安田 宏 専門:脳血管障害、脳神経外科一般 (H6 旭川医科大学卒)
 医長・安喰 稔 専門:脳卒中内科、神経内科 (H7 旭川医科大学卒)

下段左より

医長・牛越 聡 専門:脳血管障害、脳神経外科一般 (S63 北海道大学卒)
 医師・宮本 倫行 専門:脳血管障害、脳神経外科一般 (H15 北海道大学卒)

